

随想

雑感

中学教員 錦織清邦



先日、島根県の実家から宅配便が送られてきた。みかん箱を開けると私の大

好きな日本酒やするめ、菓子箱などと一緒に枝葉のついたザクロが数個入っていた。早速電話してみると寺の境内のザクロが今年にはよくなったとのこと。それを娘たちが喜んで食べる食べる。好きな物を介し、人は世代や場所を超えてつながっていくんだな、と思った。

大学で名古屋にきて以来、今でも母は時々珍しいものがとれると送ってくれる。かつては実家の山でとれた大きなマツタケが5個も6個もすだちとともに送られてきて、4畳半のアパートで料理下手な私はかえって持てあました。実家からの小包みが届くたびに、私は心の中にいまだに息づいている甘えん坊の子ど

もの部分と対面する。小学校5年生の夏に出家をして以来、両親や兄弟と会えるのは年に1度ほど、親子げんかなど生まれてこの方したことも無いというのがすこし寂しい。先日も両親と兄が台風の迫る中、愛☆地球博見物のため泊まりで藤ヶ丘に来ていたが、こちらも家族で会いに行つて久しぶりの再会をし、酒を酌み交わしつつ楽しい時間を過ごすことができた。

こんな私は両親には申し訳ないが、正直あと何回親に会えるかな、と不安に思つてしまう。一年という時間の流れの速いのに驚く。大学卒業の時、親の思い、家族同然で育ててくれた師匠や周囲の

人たちの恩を裏切るような形で寺を出た時、自分が納得する生き方をしようとする決意でいたはずだった。その時父は、「受けたご恩を大切にしないといけない」と言い、師匠や末寺の住職たちに頭を下げてくれた。さて自分はそれから何をしてきたのだろうか。時々の楽しみを追い、いかにも忙しそうに日常生活に追われ、親や師匠たちの思いに適うような生き方をしてきたかどうか。

人の恩を受け継ぐとは、人の思い通りの生き方をすることではなく、自分が本当に納得のいく生き方をすることであろうと思われるが、娘達には自分の思いをわかってもらいたいこの頃である。